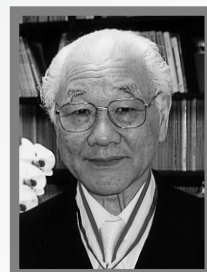


追悼

孤高のロマンチスト

—— 故 佐伯弘会員を偲んで

会員 高木 徹



故 佐伯 弘 会員
2005年12月10日ご逝去・72歳
1994年度東京弁護士会会長

私が佐伯弘さんと親しく交際させていただく契機となったのは、1973年佐伯さんが代表幹事を務められた親和全期会の執行部の末席に私が入ったことによりですが、以後佐伯さんは1977年東弁副会長、1981年二一会幹事長、1994年東弁会長兼日弁連副会長、1996年親和会幹事長を歴任され、弁護士会のリーダー役を担われてきました。

佐伯さんは、親和全期会の代表幹事の頃から既にトレードマークというべき美しい銀髪のおかげで大変貫禄があり、また強烈なリーダーシップを発揮していました。特に演説の巧みさは特筆すべきで、私の経験した限りでは弁護士会内で1、2を争う演説巧者であったと思います。

一方で佐伯さんは閥を作る訳ではなく、私には「孤高の士」という印象がありました。佐伯さんは「豪快な人」のような印象を受けますが、非常に神経が細やかで他人に対する気遣いを常に忘れない方でした。それ故先輩会員から評価され、また後輩への面倒見が良かったため私共後輩会員の敬愛を集めたものと思います。

私にとって忘れられないのは、私の師橋本順の日弁連副会長選挙のことです。私共橋本の弟子達は皆選挙の素人、佐伯さんに無理を願って事務局長をお引き受けいただき陣頭指揮をお願いしました。選挙戦当初橋本陣営は盛り上がりを欠き、意気消沈に陥りそうな私達を佐伯さんは飲み連れ出し、「流れは必ず来る」と励まし私達の意気を鼓舞してくれました。投票日の前日、佐伯さんと私は深夜まで票読みをしましたが、そこで佐伯さんが読んだ票数と開票結果が10票と変わらなかったことに驚愕したことを今も鮮明に覚えています。

佐伯さんの酒は陽気で豪快で楽しいものでした。酔うに連れ歌うカラオケ。決して上手いとはいえませんが実に味のある「佐伯節」。佐伯節を聞いていると佐伯さんはロマンチストなのだな、といつも感じていました。

昨年12月、佐伯さんの突然の訃報を聞き愕然とし、言葉もありませんでした。余りにも早過ぎるご逝去、残念ですが、今は佐伯さんのご冥福を祈るばかりです。